

【授業の到達目標および概要】

授業のテーマ及び到達目標：栄養教育および食育の実践と研究に活用される行動科学の理論・モデルの理解と活用をテーマとする。栄養教育の介入研究に必要な基礎的理論を理解し、具体的な計画を立案することができる。

授業の概要：個人や集団を対象とした、栄養教育および食育の実践と研究に活用される行動科学の理論・モデルの基礎、栄養コミュニケーションの基礎について講義し、それらの栄養教育・食育への活用例について学ぶ。また、栄養教育・食育のマネジメントサイクルにそって、アセスメント、優先課題の抽出、目的・目標の決定、評価指標・方法の決定、介入プログラムの立案、教材・学習形態等の決定、関係者との連携・協働、介入の評価、プログラムの見直し等の一連のプロセスについて学ぶ。なお、講義だけでなく、複数のテーマおよびライフステージの異なる栄養教育・食育研究を取り上げ、論文抄読・ディスカッションを通じて理論的基礎やマネジメントサイクルへの理解を深める。

【授業計画】

- ① 栄養教育で扱う食物選択・食行動に関連する諸要因の理解
- ② 行動科学理論・モデルの基礎と栄養教育・食育研究への応用（個人の行動変容を中心に）
- ③ 行動科学理論・モデルの基礎と栄養教育・食育研究への応用（個人間および個人と社会の関わりを中心に）
- ④ 栄養教育・食育のマネジメントサイクルと研究計画
- ⑤ 栄養コミュニケーションの基礎と栄養コミュニケーションの実際
- ⑥ 介入研究の国際基準（CONSORT 声明）の基本と栄養教育分野での研究事例
- ⑦ 栄養教育関連の論文抄読・ディスカッション、まとめ

【授業外学習】

事前学習として、これまで学部教育の中で学修してきたことを復習すること。また、授業時に指示する関連の文献・資料を読み、授業の予習・復習を行い、授業内でのディスカッションに繋がる質問やテーマを考えること。授業外学習の時間の目安は、おおむね30分以上／回とすること。

【成績評価の方法・基準】

授業への参加態度（発言、課題への取り組みなど）（50%）と、レポート（50%）で総合的に評価する。

【教科書】

特になし

【参考書】

- ・赤松利恵，林芙美 編. 管理栄養士・栄養士のための栄養コミュニケーション 基礎・活用・実践. 臨床栄養(臨時増刊号) 143 巻4号，2023.
- ・Contento IR. & Koch PA. Nutrition Education: Linking research, theory, and practice, 4th edition. Jones & Bartlett Learning, 2020.
- ・Contento IR 著，足立己幸，衛藤久美，佐藤都喜子監訳. これからの栄養教育論—研究・理論・実践の輪—，2015. 第一出版.
- ・Glanz, K., Rimer, BK., Viswanath K. Health Behavior and Health Education: Theory, research, and practice, 5th edition. Jossey-Bass, 2015.
- ・Mayfield B.J. Communicating Nutrition: The Authoritative Guide, Academy of Nutrition and Dietetics, 2020.
- ・中山健夫，津谷喜一郎編著：臨床研究と疫学研究のための国際ルール集，2008. ライフサイエンス出版
- ・中山健夫，津谷喜一郎編著：臨床研究と疫学研究のための国際ルール集 Part 2，2016. ライフサイエンス出版

【教材】

授業時に配布

【備考】

特になし